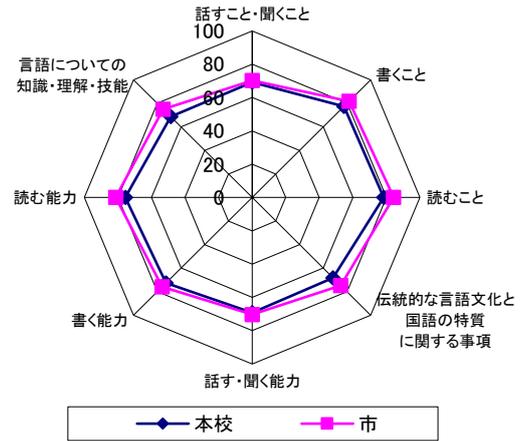


宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	69.2	70.3	68.2
	書くこと	77.3	81.7	80.6
	読むこと	78.4	84.3	84.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.3	74.7	72.7
観点別	話す・聞く能力	69.2	70.3	68.2
	書く能力	72.6	76.0	74.1
	読む能力	75.6	81.3	81.1
	言語についての知識・理解・技能	68.6	74.9	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

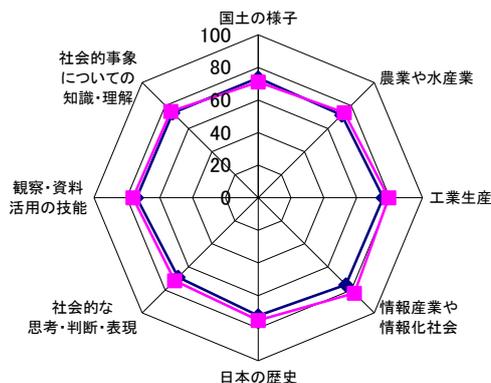
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○全体の平均値では市を下回ったが、司会の役割を理解し、司会者が言うべきことを記述する活用の場面での正答率が、市と全国を上回った。</p> <p>●与えられた情報を読み取り、答える問題では、市の平均を5ポイント程度下回った。</p>	<p>・これまで行ってきた聞くことの指導を引き続き行っていく。加えて、与えられた情報をきちんと読み取ることができるように、授業だけでなく、朝の時間に取り組んでいるドリル学習を生かして、資料問題などにも積極的に取り組ませていきたい。</p>
書くこと	<p>○無回答率は市の平均と同じで、答えようとする意欲が見られた。</p> <p>●2段落構成で文章を書く問題、グラフから読み取った事実を書く問題、読み取った事実をもとに自分の意見を書く問題では、いずれも市の平均より5ポイント程度下回った。</p>	<p>・多くの児童は、問題の意図を捉え答えることができたが、点数に表れなかった。そこで、問題の条件にあった書き方の学習をさせる。決められた文字数、段落の数などの条件作文を書かせる指導を行う。問題の出題者の意図を反映させた文の書き方を学ばせる。</p>
読むこと	<p>●場面の描写と登場人物の心情を読み取る問題、説明文の内容を読み取る問題では、どちらも市の平均を10ポイント以上下回った。</p>	<p>・これまでどおり、文を読むことや理解しながら読み進むことを、繰り返し支援していく。登場人物の心情を読み取らせる際に、どの文が根拠となっているかまで明確にさせていきたい。</p> <p>・読書量を増やす指導をしていく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○文の構成や同音異字の内容などで市の平均値を上回る結果が得られた。</p> <p>●全体の平均値では、市の平均を6ポイント程度下回った。特に4学年配当漢字の読みは30ポイント、6学年配当漢字の読みは10ポイント、5学年配当漢字の書きは10ポイント、市の平均を下回った。</p>	<p>・今後も朝の学習や漢字小テストを継続的に行い、力を付けさせていく。特に、漢字の読み方について、重点的に指導していきたい。</p> <p>・学習したばかりの漢字などは覚えているが、日がたつと忘れてしまう傾向があるので、小学校で習う漢字全体のまとめの漢字テストを行い、意欲向上とともに漢字の定着を図る。</p>

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	73.5	71.0	69.4
	農業や水産業	71.9	74.0	69.0
	工業生産	76.1	79.4	75.4
	情報産業や情報化社会	75.6	82.8	88.7
	日本の歴史	72.3	75.2	72.7
観点別	社会的な思考・判断・表現	68.9	71.9	67.2
	観察・資料活用技能	74.0	76.3	70.7
	社会的な事象についての知識・理解	73.7	75.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

★指導の工夫と改善

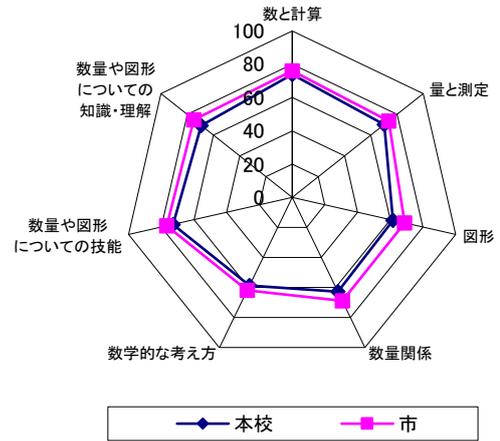
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<ul style="list-style-type: none"> ○正答率が73.5%と、市の平均を2.5ポイント上回っている。 ●国土の主な山脈、川、平野の名称についての理解が、市より2ポイント、日本の周辺の海洋名の理解が3.4ポイント低かった。 ○日本の周囲の国の国旗を問う問題は、正答率が80%を超え、おおむね定着している。 ○公害についての理解は73.9%で、市の平均61.8%を大きく上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復習用のプリントや地図等を準備し、家庭学習等で活用し定着を図る。 ・「日本とつながりの深い国々」の単元において、日本と世界とのつながりを学習する際に、海洋名について再度復習し、定着を図る。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が71.9%で市よりも2.1ポイント下回った。 ●稲作の工夫や努力について資料の読み取りは3ポイント、稲作に従事している人々の安全確保についての考察は、0.6ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復習用の教材を準備し、学習内容を再度確認できるようにする。さらに、家庭学習を中心に復習用の教材を活用し、定着を図る。 ・「日本とつながりの深い国々」や「世界の未来や日本の役割」の単元において、世界とのつながりを学習する際に、日本の農業の特徴を再度確認し、定着を図る。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が76.1%であり、市よりも3.3ポイント下回った。特に、工業製品を工業の種類別に分類・整理する問題は、60.2%と達成度が低い。また、工業生産に従事している人々による、環境保全のための工夫や努力に関する問題は92%で平均93.9%に迫っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復習用の教材を準備し、学習内容を再度確認できるようにする。さらに、家庭学習を中心に復習用の教材を活用し、定着を図る。
情報産業や情報化社会	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が75.6%と正答率が低く、市の平均を7.2ポイント下回った。特に、医療現場での情報ネットワークの活用で、サービスが向上したことに関して資料を読み取って考える問題の正答率は、55.4%で市よりも11.8ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい判断のもとで情報を扱うことができるように、学習のみならず、日常生活においても指導していく。 ・復習用の教材を活用し、学習内容を再度確認する。さらに、各教科との関連を図るなどして、日常における情報産業や情報化社会についての理解を深め、定着を図っていく。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が72.3%で、定着率が低かった。古墳の資料読み取りは56.8%で市よりも9.8ポイント、大名配置の資料読み取りは67%で市よりも6.8ポイント、板垣退助らの働きは58%で市よりも13ポイント正答率が低かった。 ○書院造、江戸時代の文化、倒幕に働いた人物に関する問題では、正答率がいずれも市を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・復習用の教材を活用し、歴史の流れや出来事について再度確認したり復習したりする。 ・社会科新聞づくりを通して、資料を活用したり、要点をまとめたりしながら、自分の言葉で表現する力を育てていく。 ・家庭学習等において、自主的な調べ学習を奨励し、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	73.9	76.1	73.5
	量と測定	70.3	73.6	70.1
	図形	61.6	68.8	66.6
	数量関係	62.8	68.9	64.5
観点別	数学的な考え方	58.7	61.8	54.9
	数量や図形に関する技能	72.8	76.7	73.2
	数量や図形に関する知識・理解	69.4	75.0	73.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

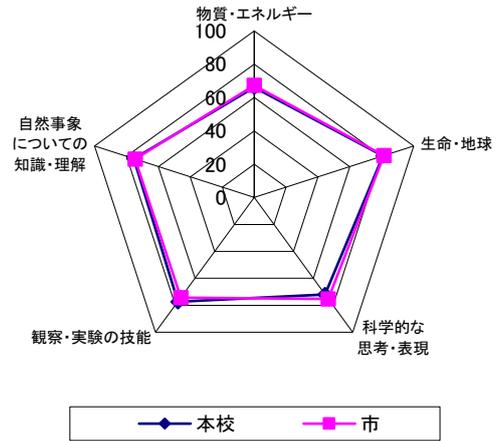
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が69.5%で市より5.1ポイント低かった。 ●図を使って、分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ問題は、正答率が37.8%とかなり低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材もプリントしてあるので、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が68.7%で、市より3.8ポイント低かった。特に、速さと時間から道のりを求める問題(単位換算あり)の正答率が37.5%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材もプリントしてあるので、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。 ・教科書やドリルの学習で、かつてつまづいた問題を繰り返してやり直すように指導する。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が55.5%で、市より7.3ポイント低かった。 ○合同な三角形を作図する問題は、90.0%とよくできていた。 ●円の直径から円周を求める式を選ぶ問題では、正答率が21.7%と低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材もプリントしてあるので、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。 ・子ども自身が図説をした上で解くように指導する。特にコンパスを活用する作図に関しては繰り返し指導をする。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率が67.9%で、市より3.3ポイント低かった。 ○比例の関係をxやyを使って表す問題や、帯グラフから割合を求める問題はよくできていた。 ●比の値を使って必要な材料の量を求める方法を説明する問題は、正答率が31.7%で、無答率は15.8%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在進めている教科書巻末の「6年間の算数のそうまとめ」が終了後、自分が苦手な分野を確認させる。補充プリントを準備し、少しでも理解が進むようにする。復習用教材もプリントしてあるので、それも有効活用していくなど、個に応じた指導を継続していく。 ・線分図や簡単な図形を描いて比の問題の解き方を説明し、子ども自身も同様に図説してから解くように指導する。

宇都宮市立御幸が原小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.1	67.3	64.4
	生命・地球	80.8	81.3	80.3
観点別	科学的な思考・表現	72.0	75.3	72.6
	観察・実験の技能	77.4	74.4	73.5
	自然事象についての知識・理解	75.4	74.7	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ●正答率は、市の平均を少し下回った。 ○物のとけ方の問題は、すべて市の正答率を上回った。 ●ふりこのきまりの問題では、きまりから速くする方法を推察する問題、水溶液の性質の問題では、実験結果から予想を検証して説明する問題が、市の正答率をかなり下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験時には、問題意識を明確にもちながら、さらに、そろえる条件と変える条件を意識して実験・観察に取り組むように指導する。さらには、実験結果と考察を自分の言葉でまとめられるように、科学的思考力とともに考えを表現する言葉の力も育てていく。また、復習用教材を活用し、各自再確認をさせていく。
生命・地球	<ul style="list-style-type: none"> ○正答率は、市の平均と同程度である。 ○胎児が母親のおなかの中にいる期間や月の周期の問題は、市の正答率を10ポイント以上、上回った。 ●養分が吸収される臓器、月の見え方と位置関係の問題は、市の正答率を約9ポイント下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主要な消化器官・循環器官の位置や働きを復習する。また、月の動きについて問題意識をもち、どのような法則で動いているのかが理解できるように指導する。さらに、復習用教材を活用し、各自再確認をさせ、実験はなるべく少人数で体験させ、方法や結果について自分の言葉で確認していく授業を心掛けるようにする。

宇都宮市立御幸が原小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○主体的・対話的で深い学びを追究する授業づくりの推進	○友達の意見に対して温かい反応を示し、自分と友達の考えをつなぎ、ねらいにせまるために授業の質を高めていく指導過程の工夫 ○他の考えを的確にとらえ、比較したり、関連付けたりしながら自分の考えをもち、根拠を挙げて自分の考えを表現する能力・態度の育成 ○言語活動の充実を目指した授業を工夫し、校内研修の充実と、一人一授業公開の実践と授業反省会による指導法の共有化	・設問の難易度にかかわらず、得た知識をもとに比較したり、関連付けたりする活動に難しさを感じている。 ・他の考えを的確にとらえること、そこから始まる思考と表現する力が弱い傾向にある。
○個に応じた指導の工夫と学習内容の定着を図る指導の強化	○授業形態の改善と発言の奨励・称賛 ○話し合い活動のさらなる推進 ○読書活動の推奨や文章の読解練習 ○文章を書く活動の推進 ○家庭での「復習」の奨励・啓発	・深い思考を伴う設問や、長文理解を伴う問題など、根気が必要な問題に対して、苦手意識が強い傾向がある。 ・問題に対して自分が理解したことや考えを表現する力が劣っている。理解したことを一旦子ども自身が納得し定着した上で表現する段階でできない場合が多い。表現まで時間がかかったり、力不足から表現に至らない場合が多い。 ・漢字や作文等の「書く」活動についての力不足が見られた。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・全般的に定着度が低いために、全体での主体的・対話的で深い学びを導く話し合い活動の設定が難しい現状がある。しかし、学力の全体的な底上げをねらい、各学級で国語に限らず多くの教科において子どもが主体になる話し合いを意図的に繰り返して設定する必要がある。
- ・各教科での、話し合いを中心にすえた単元計画の見直しや、毎日の学習活動での意図的な話し合い活動の設定を試みる。
- ・表現することの中でも「書く」活動が足りていない状況があることから、話し合いをした上で「書く」という活動を意図的に設定していく。
- ・漢字や言葉の表現にかかわる基礎的・基本的な力を伸ばすために、ドリル等での定着を一層図っていく。